



荘内だより

荘内病院
臨床研修
通信 Vol. 11
2021. 8 発行

協力病院紹介

鶴岡協立病院

院長 堀内 隆三 先生



“いつまでも安心して住み続けられるまちづくり”をめざし、
無差別平等の医療を展開しています

鶴岡協立病院の設立運営母体である医療生協やまがたは、4万2千人余りの生協組合員によって設立運営されている医療・介護の複合機関です。当院(140床)のほか、鶴岡協立リハビリテーション病院(140床)、4つの診療所と様々な介護施設を併せ持っています。健康づくり・保健予防活動から、急性期・亜急性期・回復期・リハビリ・慢性期医療、そして在宅医療へと、切れ目のない医療・介護を展開し、南庄内の地域包括ケアのハブ機能を持つ病院として地域医療を担っています。

一切の差額ベッドを持たず、生活困窮者には無料低額診療を行うなど、SDH(健康の社会的決定要因)の視点を重視しながら、社会的弱者にとって最後の砦であろうとしています。

さらに私たちは、病院の中だけにとどまらず地域の中に入り、支部・班活動や“たまり場づくり”を通じて、医療生協組合員と共に“いつまでも安心して住み続けられるまちづくり”の活動を展開しています。

外来では、生活習慣病を中心に、入院機能を持った“かかりつけ医・主治医”として、住民に寄り添う医療を展開するとともに、糖尿病では慈恵医大・国際医療福祉大の専門医チーム、循環器科では日本医大の専門チームの力も借りながら、最先端レベルの医療を目指しています。

毎年1万人以上の人間ドック・健診を行い、特に消化器内視鏡検査では、山形県内で1位あるいは2位の検査数を誇っています。

人生最後の時を住み慣れた自宅で迎えたいという願いをかなえるため、在宅・訪問診療を積極的に行い、年間50件以上の自宅での看取りを行っています。

超少子高齢化が進行し、地域の人口減少が明らかです。『自院完結型医療』から『地域完結型医療』

への転換の必要性が叫ばれてから久しいですが、これからの地域の医療機関の連携は、連携から融合へと、新たな一歩が求められているのではないのでしょうか。

私たちは、自院のポジショニングを明らかにして、基幹病院や開業医・介護施設とのこれまで以上の連携を目指しています。

最後に、研修医の皆さんには、大学や急性期医療中心の基幹病院では経験できない、地域住民と共に歩む、住民目線の地域医療を学んでほしいと願っています。



先輩の声

山形大学医学部附属病院 佐々木 康介 先生

(2019年4月～2021年3月研修)

みなさんご無沙汰しております。昨年、荘内病院での初期研修を超優秀な成績で卒業しました。あの佐々木康介です。現在は山形大学脳神経外科で脳外科医として勤務しております。4月から大学病院での勤務となり、荘内病院の脳外科では見ることもなかった様々な種類の脳外科疾患や面白い手術を目の当たりにし、新鮮な日々を過ごしています。山形県はコロナウイルス感染者が少ないとはいえ、このご時世なのでなかなか飲みに繰り出すこともできず、飲みに行くために借りた駅前の家と病院の往復の毎日です。もう脳味噌漬けの生活になっています。



まあそんなこんなで気がつけば早くも7月となり今年も夏が僕たちのところに帰ってきました。僕の出身の京都市では夏は40°C近くまで気温が上がるうえ湿度も高くなるため、「都だけど”住めば都”にならない地」と言っても過言ではないと思っています。東北に来ればそこまでではないと考えていたのですが、聞くとところによると山形市は京都市と同じで盆地らしいですね。夏の暑さから逃れるために東北地方に来たにも関わらず、またフェーン現象に苦しめられる日々が始まるのかと考えると少し憂鬱になってしまいます。「脳外科医も物憂げかい？」といったところですかね。気を晴らすことも人生においては非常に大切なことだと思うので、たまの休みがあれば鶴岡に”避暑”しに行きたいなと考える今日のごろでした。

今年度からの研修医を紹介します！

- ① 出身大学
- ② 出身地
- ③ 趣味・特技
- ④ 好きな食べ物
- ⑤ 好きな言葉・座右の銘
- ⑥ 最近思うこと
- ⑦ これからの意気込み



あかお ごう
赤尾 剛 先生

- (基幹型1年次)
- ①山形大学
 - ②山梨県甲府市
 - ③囲碁、フットサル
 - ④冷麺、シュークリーム
 - ⑤捲土重来

- ⑥夏が来た
- ⑦精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



おかだ みちひで
岡田 伯未 先生

- (基幹型1年次)
- ①東邦大学
 - ②東京都町田市
 - ③温泉、料理
 - ④羊肉、にんにく、いちご、十割そば、ひき割り納豆
 - ⑤一日二食

- ⑥果物おいしいですが、財布は軽くなります。
- ⑦精一杯がんばります。



おおた ゆうじ
太田 悠自 先生

- (基幹型1年次)
- ①東北大学
 - ②東京都目黒区
 - ③筋トレ、スノーボード
 - ④ピザ、ハンバーガー
 - ⑤好奇心は疲れない

- ⑥ここ最近、ER 講座や残業などあって、ジム通いをサボっていたらお腹の肉が増えてきました(汗)
- ⑦救急や病棟での急変に対して適切な初期対応ができるように勉強していきたいと思います。

先輩の皆様のお便りをお待ちしています。
連絡先が変更になった場合もご連絡をお願いします。

【連絡先】

鶴岡市立荘内病院
臨床研修秘書 伊藤 江里子
電話 0235-26-5111

